

# 石狩浜の海浜植物 (1)

石狩川の河口から流れ出した砂と海の働きで形成された石狩浜には、生育する場所に適応した特色のある植物が見られます。そのうちのいくつかを紹介します。

なぎさの線に近く、砂が不安定な所に多い植物。地下茎や根が動きやすい砂を固定する役割を果たします。

## ■ハマニガナ (キク科)

花期 6月～10月上旬。黄色のタンポポ様の花。茎が砂の中をはい、葉と花だけが砂上に並びます。

## ■ハマニンク (イネ科)

花期 6月。まっすぐに伸びた穂と先端がとがった厚みのある葉が特徴。ニンクの葉に似ていることからついた名です。

## ■コウボウムギ (カヤツリグサ科)

花期 5月上旬～6月上旬。雌雄異株。花は、高さ10～20cmの穂の先につきます。雌花の咲いた後に、硬い果実ができます。

## ■ハマボウフウ (セリ科)

花期 6月下旬～7月。小さな花がボール状に集まり、さらにそれが集まって傘状の花(花序)をつけます。春先の茎は山菜として親しまれています。

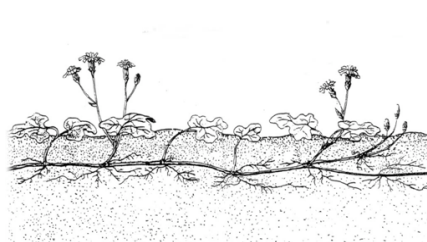
(林 迪子)

(1) 鮫島淳一郎・辻井達一・梅沢俊 (1999) 増補版北海道の花. 北海道大学図書刊行会.

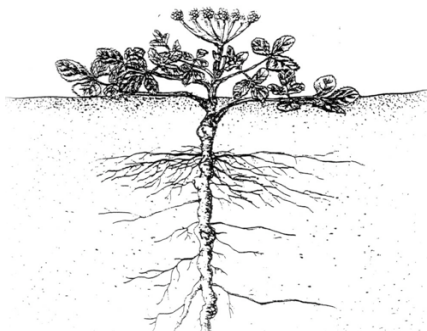
(2) 石狩浜海浜植物保護センター (2003) 石狩浜自然観察ハンドブック. 石狩市.



ハマニガナ



ハマボウフウ



画 内藤華子